

令和6年度 第2回学校運営協議会議事録

日時：令和6年10月5日（土）14:00～16:00

場所：大阪府立茨木高等学校 校長室

出席者：【 委 員 】 添田晴雄、岩井八郎、柴田仁、中村卓、檜本佳子、國末奈緒

【校長・事務局】 高江洲良昌、朝倉淳、藤山恵里、森登紀子、森佳希、山本尚

1. 校長挨拶
2. 委員紹介・事務局職員紹介
3. 議事
 - ①本年度の各取組みについて（中間報告）
 - ②教科書選定結果について
 - ③その他
 - ④次回協議会日程

<校長挨拶>

- ・6月以降の学校の様子を報告。特に9月の体育祭における生徒の様子について説明

<事務局からの議事に係る説明>

①本年度の各取組みについて（中間報告）

*校長より、令和6年度学校経営計画に沿って、具体的な取組み状況及び生徒の様子を報告、
また事務局より第2回学校運営協議会資料に沿って、個々の取組みについて説明

委 員：茨木高校出身で京都大学・大阪大学・神戸大学の教員になっている人数はどれくらいか？

事務局：調べてみたいと思うが、難しいと思う。

委 員：パークレー（GLHS）研修の費用はどうなっているのか？

事務局：河内基金からの補助がある。

委 員：自費で行きたいと思っている子もいるのでは？

事務局：いると思う。しかし、費用が高額になることもあって、実際は難しいところがあるのではないかと考えている。

委 員：国際交流に係る費用が高額になっている。

事務局：円安の影響もある。またパック旅行等で海外に行くのであれば費用は抑えられるが、本校は生徒が行事をつくりあげていくので、内容が確定するまでに時間がかかり、

どうしても費用が高くなりがちである。

委員：現実には厳しいですね。

事務局：生徒に海外に行かせてあげたいと思っているが、費用面など難しい面がある。

一つの考え方として先ほどの話にあったパッケージ型の国際交流もあると思うが、本校の場合は独自で国際交流プログラムをつくりあげていくということにウェイトを置きたいという考えである。

委員：生徒の行事委員は、実施日のどれくらい前に委員が決定するのか？

事務局：行事委員も含め、各クラスの委員は4月の最初に決まる。

委員：AFSの留学はどうなっているのか、昔は1年留学をした生徒もいた。

事務局：例年1人～2人いる。よく相談を受ける。

事務局：第1回授業アンケートの結果の概況について、生徒の肯定評価率は例年と同じ程度であった。質問1にある「自分で予習・復習をする」と回答する生徒数が、学年が進むにしたがって増える傾向にある。一方、自由記述欄を分析していると「分かりやすい授業をしてほしい。まとめプリントが欲しい」という回答が増えている。

委員：教員が学問の面白さについて語ることが、生徒の「さらに学びたい」という気持ちを引き出すことにつながるのではないか。

委員：大学入試やその先の見通しを示すことも大事ではないか。

事務局：9月に行った埼玉県立浦和高等学校を視察してきた内容を説明する。浦和高等学校は本校と同様、生徒が主体的に活動できる学校である。進学実績が高いうえに、学校行事にも力を入れているところは本校にも似ている。浦和高校が学校行事に力を入れている理由はクラスの人間関係づくりが大きい。よく言われるように受験は団体戦であるという考えのもと、「良い集団をどのようにするのか」という目的を明確にしながら様々な行事等を行っている印象を受けた。浦和高校の事例をそのまま茨木高校に生かすことは難しいと思うが、茨木高校の伝統とは何なのかや、それをどのように引き継いでいけばよいかについて、教員間で話し合うヒントになったと思う。

委員：浦和高校の卒業生は競争意識が強いイメージがある。

事務局：工学院大学附属高校の視察も行った。工学院大学附属高校は海外の大学への進学率が高い。また数学の授業を英語で行ったり、海外の教科書を授業に用いたりしている。また探究型の授業に積極的に取り組んでいる。このような事例を今後の茨木高校の授業力向上に努めていきたい。

②教科書選定の結果について

＊事務局より資料に沿って、説明

事務局：教科書選定の流れについて、配付資料をもとに説明。

委員：授業は教科書に沿って行われていると思うが、教員のみなさんは自作の教材もつく

りながら授業を進めているのか。

事務局：大学入試問題が教科書ベースで作られているので、基本は教科書の流れに沿った授業展開をしている。ただ最近は教科書に掲載されていることをもとにして、生徒が思考することが求められる問題も出題されるので、授業では発展的な内容を取り扱うことが当然ある。

③その他

事務局：大阪府における不登校、高等学校中途退学の現状と対策について、資料に沿って説明。

委員：大阪府の不登校、中途退学者の割合が特に多いことについての分析があるか。

事務局：詳細に分析されているかどうかは分からない。ただ、コロナ禍以前より割合が高いという事実はある。様々な要因が絡み合っているように思う。

委員：休むことに抵抗のない若者が増えている。

事務局：その他

- ・避難所における新型コロナウイルス感染症への対応について（令和2年4月1日付 府政防第779号）
 - ・指定避難所における防災機能設備等の強化の推進について（令和5年7月12日付 府政防第2842号）
- をもとに、地域自治体などと連携した防災計画について意見交換。